岡山大学 Alumni（全学同窓会）グローバル人材育成支援事業
グローバル人材自己啓発奨励金事業　体験レポート

岡山大学理学部化学科 2 年　大野さくら

National Model United Nations in New York 2019（2019.3 月参加）

私は 2019 年 3 月 24 日－28 日にかけてアメリカ　ニューヨークで開催された、National Model United Nations in New York (NMUN・NY) 2019　に参加しました。

参加するにあたり、事前に position paper を作成しました。Position paper では、自分が大使を務める国の実情、国際的な位置などを記し、与えられた議題の論点を明確にします。これは論点整理をし、会議でしっかりと意見を発言できるようにするためだけではなく、学生大使同士が事前に自分の担当国についてきちんと理解しておくことで、実際の会議の過程で「あの国が抱えている問題点は自分の担当国と似ている」など他国との違いや類似点を比較・理解しながら、決議案を一緒に作っていく国を探す重要な手段の一つにもなります。

そのため、この position paper 作成には多くの時間をかけ、完成させました。参加学生は一つの国の大使として、General Assembly 1st、 2nd、 3rd Committee や UNICEF、WHO などをはじめとする約 20 の国連組織のいずれかに属します。私はボツワナ共和国の大使として General Assembly 3rd Committee (GA3) という組織に属しました。GA3 では 1)Inclusive Development for Persons with Disabilities　2)Combating Human Trafficking　3)Strengthening Humanitarian and Disaster Relief Assistance という三つのテーマが議題として掲げられていたので、現在ボツワナが抱えている 1)、2)、3)それぞれの議題に関する問題点を本やインターネットを用いて調べ、洗い出していきました。ボツワナという国自体がそこまで有名なわけでもないので情報量が少なかったり、ネットで相反する二つの内容が見つかったりと、さまざまな困難がありましたが、ペアを組んだ学生とたくさん議論し、たくさん調べ直したりしてなんとか position paper を書き終えることができました。ただ、ここで締め切りまでに提出したから終わり！というわけではありません。本番まで継続的に、さらに自分の担当国を含めた国際社会の抱える問題や情勢について勉強しました。今考えると、この事前学習を経たことにより、本番の会議でもしっかり議論に参加して意見を発言できたのだと思います。

開会式の様子

次に 5 日間に渡る本番の会議について大まかな流れを説明します。初日の会議では、会議で取り上げる議題の順番を決定します。各国学生大使が議題の優先順位に関するプレゼンテーションを行い、最終的に投票により、最初に 2) Strengthening Humanitarian and Disaster Relief Assistance を議題に掲げることに決まりました。その後、参加者は会議室内を自由に歩き回り、自らさまざまな学生大使とその議題に関する意見を出し合い、抱えている問題点や考えている解決策の方向性が似ている国同士で、決議案を作成していくワーキンググループを作ります。この段階では、自分から積極的にたくさんの学生大使にコミュニケーションを取ることがいかに大切かを身をもって学ぶことができました。自分から行動しなければ最適なワーキンググループを見つけることはできませんし、そもそもどのワーキンググループにも入れないかもしれません。私は積極的にボツワナ大使としての意見をたくさんの人に伝え、たくさんの人と議論を交わしたからこそ解決策の方向性の似ている国の学生大使たちとワーキンググループを作ることができました。そこからは毎日 formal session と informal session を繰り返してワーキンググループで文書を作っていきました。私のワーキンググループでは日本人は私一人しかいなかったので少し心さみしい時もありましたが、ひるむことなく意見を発信し積極的に議論を交わすことができました。最後に私が所属していたワーキンググループの決議案がみんなに認められて可決されたときにはとても達成感がありました

ワーキンググループでの活動の様子

会議の様子

また模擬国連大会２日目には、ニューヨークにある本物の国連本部ビルを訪れ、見学することができました。これは一生に一度できるかできないかくらいの貴重な体験でした。ここで世界各国の大使が集結し、実際に国連会議を行っているのだと想像すると、とても不思議な気持ちになりました。私も将来この場所で会議に参加できるようになりたいという気持ちが生まれるなど、やはり本物を実際に自分で体感するということは、将来の可能性の幅を広げてくれるのだなと感じました。

国連本部ビルにて

国連本部の会議場にて

今回の模擬国連大会で学んだことは数多くありますが、主に次の 3 点が挙げられます。

一つめは現在国際社会で起きている問題へ理解を深めることができたことです。事前準備の position paper 作成段階に自分たちで調査することから始まり、実際の会議を通してほかの学生大使のスピーチやディスカッションからも新たな知識や視点を学びました。これをきっかけに今後自分でも自主的に調べて理解を深めていきたいと思いました。

二つめは一国の大使としての責任やふるまい方です。今回の模擬国連大会には、これまで多くの模擬国連大会に参加してきた経験者もおり、意欲的で高い意識の学生たちと５日間一緒に過ごし、議論を交わす中で、彼らが自分の担当する国に対し誇りを持って堂々と意見を言う姿に触れるうちに自然と私も大使としての自覚が芽生え、大使が取り組む仕事についても学ぶことができました。

そして三つめは本格的に英語で議論するディベート能力の向上です。参加学生のうち外国人の割合が 99%という環境における英語での議論は、日本で本番を想定してトレーニングは行っていたものの、やはりレベルの高さを感じずにはいられませんでした。もちろんたった５日間で英語での議論の技術をすべて学んだわけではありませんが、自分自身の成長に向けてまずは第一歩を踏めたのではないかと思います。今後もこのような国際会議等に積極的に参加して、さらにこれらの能力を向上させたいと思います。